

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市多摩スポーツセンター	評価対象年度	令和元年度
事業者名	株式会社多摩オールフラッツ	評価者	地域振興課長
指定期間	平成22年12月1日～令和3年3月31日	所管課	多摩区役所 地域振興課

2. 事業実績

利用実績 (単位:人)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	32,501	48,691	42,154	49,254	40,252	52,157	43,574	40,656	37,157	30,152	39,817	8,158	464,523
収支実績 (単位:千円)	H31 収入	指定管理委託費	125,412	129,320	3,908								
		利用料金収入	77,985	72,766	△ 5,219								
		事業収入	78,986	77,544	△ 1,442								
		雑収入	9,912	9,537	△ 375								
		補償金	0	6,359	6,359								
	収入計	292,295	295,526	3,231									
	支出	管理運営費	177,576	198,692	21,116								
		光熱水費	44,000	43,209	△ 791								
		保険料	1,087	1,031	△ 56								
		その他	14,101	11,217	△ 2,884								
支出計		236,764	254,149	17,385									
収支差額	55,531	41,377	△ 14,154										
サービス向上の取組	<p>◇開館時間の中で、特に利用者が多い時間帯について、各種手続きが滞りなく行えるよう、職員配置を増員している。</p> <p>◇同じ料金でより多くの回数施設を利用してもらえよう、プール利用回数券の枚数増キャンペーン(11枚→13枚)を実施し、利用収入の増とさらなる館の利用を図った。</p> <p>◇敬老の日や体育の日に温水プールやトレーニングルームの利用料金を無料として、普段施設を利用している方への還元や、施設を利用したことがない地域住民の方々へのアプローチを行った。</p> <p>◇集客促進計画の一部として、平日の夜間や土日祝日にスポーツ緑日(無料体験型教室)を開催した。</p> <p>◇館内利用に係る安全・安心への取組として、新たにAEDトレーナーを配備し、職員の緊急時対応の技能のスキルアップを図った。</p> <p>◇トレーニング室に大型ファン、加湿器を新たに設置し、快適な空間づくりに取り組んだ。</p> <p>◇スポーツ教室事業について、令和元年度においては3種目を増設し、幅広い世代、多様なニーズに対応したスポーツ教室を計画・実施した。</p> <p>◇自由提案事業として巡回バスを運行し(小田急線生田駅・JR南武線中野島駅の2ルート)、利用者の利便性向上に継続して取り組んでいる。</p> <p>◇地域において障害当事者が気軽にスポーツや社会交流に参加できるよう、活動の場や支援者を増やすための人材育成を目的とした、市主催の「オープンエアメーカー養成講習会」を職員30名が受講し、障害者をはじめとする利用者に対する接遇力向上を図った。</p>												

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階 (加点割合)	評価点
総合的な運営状況	基本方針	公の施設としての理念を尊重し、社会体育施設としての役割や目的を果しているか。	5	4(0.8)	4
	事業成果	事業実施による成果の測定・検証が適切に行われているか。	5	3(0.6)	3
管理業務の実施状況	(評価の理由)	<p>◇基本方針に基づき、快適な利用環境と公平・平等な利用を確保しながら、子供から高齢者まで、障害を持つ方にも安心して気軽に利用していただけるようサービスの向上に努めているとともに、事業計画に基づいた施設運営がなされている。</p> <p>◇平成31年度の利用者数は464,523人と平成30年度に比べ6,883人増加(前年比101.5%)となった。個人利用・団体利用共に前年の利用者数を上回るペースで推移していたが、新型コロナウイルスの影響により、2月3月の利用者数は減少傾向となり、団体利用は前年比115.4%となる一方で、個人利用は前年比89%にとどまった。全体的には開館から順調に運営されており、これまでの利用促進に向けた取組の成果として評価する。</p> <p>◇障害者スポーツ大会の水泳会場として、監視員の配置や会場設営等で協力を行った他、開館時から知的障害児のためのプール教室を続け特別事業として実施している知的障害者のための水泳教室は、全7回の開催で利用者が76名であった。また、障害者のプール利用者は新型コロナウイルスの影響により4,954人(前年比94.5%)と減少したが、昨年度並みの水準を保っており、障害児者の運動機会の拡大に繋げる取組を行っている。</p> <p>◇維持管理・運営業務について、代表企業と運営・維持管理企業が月1回モニタリング定例会を実施。自己評価も併せて行い、業務の確実な実施と品質の維持向上、企業間のコミュニケーションの促進に努めている。</p> <p>◇ご意見箱にいただいた要望等は館内に回答を掲示しモニタリング定例会で共有しているほか、利用者アンケートを継続して実施するなど、意見や要望を事業に反映できるよう努めている。</p>			
	維持管理等の再委託	施設利用提供に支障をきたすことの無いよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に行っているか。	5	3(0.6)	3
	休館日・開館時間	安全で適正な管理運営を確立するとともに、利便性や利用サービスの向上に留意した施設提供を行っているか。	5	3(0.6)	3
	利用料金	公平性・平等性及び受益者負担について留意し利用料金の設定を行うとともに、利用者の利便性や利用サービスの向上を図っているか。	5	4(0.8)	4
	諸施設の活用と提供サービス	効果的な諸施設の活用及び提供サービス(飲料・補食品の販売を含む)の向上を図っているか。	5	3(0.6)	3
	個人情報保護や情報公開	個人情報の保護や情報の公開を適切に行っているか。	5	3(0.6)	3
	利用促進	施設の利用促進に向けた取り組みがなされているか。	5	4(0.8)	4
	人員配置	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備され、円滑な施設運営に必要な人員配置(資質・ローテーション等)を行っているか。	5	3(0.6)	3
	職員研修	各種研修等を行うなど、人員の資質の向上を図っているか。	5	4(0.8)	4
	危機管理	利用者の安全の確保及び有事の際の適切・迅速な対応のための危機管理体制がとられているか。	5	4(0.8)	4
(評価の理由)	<p>◇利用券の現金購入の不便さを解消するためのチャージカードの導入や1回分お得な回数券の設定、屋外施設の天候不良時の無料キャンセル、照明の時間点灯などに加えて、プール利用回数券の枚数増キャンペーン(11枚→13枚)を実施し、天候や利用者のニーズに臨機応変に対応し、利便性及びサービス向上の取組を行っている。</p> <p>◇広報活動として、近隣小学校や老人いこいの家、民間施設などへの広報チラシの配布、FacebookやTwitterなどのSNSの活用のほか、よりダイレクトな広報手段として多摩区子ども会役員連合会の協力により、同役員者のスマートフォンからお子様向けのイベントチラシの一斉配信を実施し、広報を強化し利用促進に努めた。</p> <p>◇研修の受講状況については、コンプライアンス研修や市主催の「オープンエアメーカー養成講習会、防災出前講座、市民救命士養成講習会」を通じて、意識を醸成し、人員の資質の向上を図っている。</p> <p>◇昨年発生した台風19号への災害対応として、区からの要請に基づき、避難者受け入れのため急遽駐車場を開放し、50台程度の車両の避難に対応した。</p> <p>◇新型コロナウイルスの感染拡大防止対応として、区からの指示に基づき、館内への掲示、一部業務の変更や休止、それに伴う利用者に対する対応等、適宜必要な対応を行った。</p>				

事業実施状況	施設利用提供業務	生涯スポーツ振興を図るための施設利用提供を行っているか。	5	4(0.8)	4
	個人開放事業	生涯スポーツ振興を図るための個人開放事業(トレーニング室を含む)を実施しているか。	5	4(0.8)	4
	教室等事業	生涯スポーツ振興を図るためのスポーツ教室やイベント等事業を実施しているか。	5	4(0.8)	4
	スポーツ情報提供及び相談業務	生涯スポーツ振興を図るための情報の提供及び相談業務等を行なっているか。	5	3(0.6)	3
	指導者・ボランティアの育成	地域スポーツ指導者の育成やボランティア等の育成のための事業を実施しているか。	5	3(0.6)	3
	総合型地域スポーツクラブの支援	総合型地域スポーツクラブの活動支援を行っているか。	5	3(0.6)	3
	自主事業に関する事項	利便性やサービスの向上のための自主事業等を実施しているか。	5	4(0.8)	4
(評価の理由) ◇施設利用提供業務について、大体育室を抽選で利用する団体に対して、事前打ち合わせをきめ細やかに行うことで、不要となった枠を積極的に開放するなどの工夫により、団体利用者数は過去最高の249,590人(昨年比約115%増)を記録した。 ◇トレーニング室の運営事業については、機器の日頃のメンテナンスの徹底や31年度も新たな機器を導入したほか、トレーナーによるきめ細かな配慮や声かけを行うことにより、トラブルの発生を防ぐなど、利用者満足度の向上に取り組んでいる。 ◇スポーツ教室事業については、短期及び特別事業も含め、幼児から高齢者、障害者などを対象とした幅広い教室(約60種目)の企画運営がされていること、人気教室の増設や土曜日開催教室の開講、高齢者に好評である「転倒防止体操教室(ちょきん運動)」等、利用者ニーズに応える内容を提供しており、31年度についても4講座を新たに開講した。受講者は昨年度並みのペースで推移していたが、3月にコロナの影響はあり、結果として延べ67,135人(前年比約93%)という結果となった。 ◇7回目となる「多摩区スポーツフェスタ」の開催にあたっては、実行委員会において内容検討から参加し、施設の提供に留まることなく、メイン会場としての運営や13種目について開催種目の担当を行った。当日はコロナの影響により中止となったが、第1回の開催から継続して円滑な事業の実施に多大な貢献をしていることは高く評価できる。 ◇小田急線生田駅とJR南武線中野島駅・京王線稲田駅を結ぶ2ルートの巡回バスを運行している。利用者が延べ4,842人(前年度比83%)となったが、継続して事業実施することで、利用者の利便性向上に努めている。					
収支状況	安定性	収支計画に基づく安定した運営を行っているか	5	4(0.8)	4
	効率性	サービスの維持・向上に留意した上で効果的・効率的な予算執行が図られているか。	5	3(0.6)	3
	(評価の理由) ◇新型コロナウイルスの影響により、各収入が当初予算額に届かなかったものの、トータルの収支としては約4,000万円の黒字となっており、安定的な運営を行えているものと考えられる。 ◇サービスの維持向上に対して適切な予算執行が図られており、問題ないと考えられる。				

4. 総合評価

評価点合計	70	評価ランク	B
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

<p>今回の事業評価は10年次目の評価となるが、平成22年度は屋外施設のみでの運営であり、屋内施設を含めた運営は平成23年度からとなっている。屋外施設と屋内施設を併せて管理することにより、利用者の利便性を向上させることができている。</p> <p>10年次目の総合的な評価としては、施設を運営するにあたり、区のスポーツ活動の拠点として、障害の有無にかかわらず、幼児から高齢者まで誰もがいつでもスポーツを楽しめ、健康増進を図ることができ、また、地域コミュニティの核として、スポーツ活動を通じた人々のふれあいや地域活動の活性化が図られる施設としての役割を果たしているものと評価する。</p> <p>新型コロナウイルスの影響があったにもかかわらず、令和元年度の利用者数は前年比で約7,000人増加しており、全体的には開館から順調に運営されており、これまでの利用促進に向けた取組の成果として評価する。</p> <p>評価内容としては次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ教室事業については、幅広い教室(約60種目)の企画や、利用者ニーズに応えるメニューの提供、障害者向けの水泳教室の継続実施など、年齢・性別・障害の有無を問わず、広く市民へアプローチすることによって、教室受講者数を高い水準で維持している。 ・スポーツ行政への協力業務として、「多摩区スポーツフェスタ」の開催にあたり、円滑な事業の実施に多大な貢献をしている。 ・職員を対象とした各種訓練の実施や、研修の受講を定期的・継続的に実施し、職員の資質及び技能向上に努めている。 ・自由提案事業として、開館以降巡回バスを運行しており、継続して利便性やサービスの向上を図っている。 ・近隣小学校の水泳授業に施設を提供し、学校と連携して施設の有効活用を図るなど、地域との連携に努めている。 ・利用促進のために、チラシ配布をはじめ、FacebookやTwitterなどのSNSを利用した広報、多摩区子ども会役員連合会と連携した情報発信など、広報に積極的に取り組んでいる。 ・安全管理や防災の観点から、台風時の避難者受け入れや新型コロナウイルスの感染防止について適切に対応している。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

<p>来年度は指定期間の最終年度となるため、現行の体制の集大成として、多摩スポーツセンターの管理運営を通じた各種スポーツ事業の推進・生涯スポーツの振興など、各業務へのより一層の尽力を期待する。</p> <p>各業務について、研修や訓練を通じて、これまで以上に安全・安心で質の高いサービスの提供を行うとともに、効率的で安定的な管理運営に努めること。</p> <p>ジャグジープールにおける衛生管理については、引き続き、高い基準での衛生管理に努めること。</p> <p>公平で平等な利用という観点から、利用者数や利用者収入の増加だけを目的とするのではなく、教室と個人利用のバランスを考慮しサービスの提供を行うこと。</p> <p>引き続き、地域活動への貢献や施設のPR活動に積極的に取り組むこと。広報活動については、Youtubeを活用した施設紹介やトレーニングの動画配信など、様々な手段を検討し、FacebookやTwitterなどのSNSにおいては、フォロワーを増やすことで、より多くの方への情報発信に努めること。</p> <p>収集しているデータについて、利用者総数や障害者の利用実績は整備されているが、事業効果(利用者層の広がり等)をより一層高める観点から、今後、利用者等についてより多様なデータの収集・分析を行い、必要な改善等を図るよう検討すること。</p> <p>利用者アンケートについては、目的を明確にしたうえで、対象者や時期、回収方法などについて、他区のスポーツセンターの実施状況も参考にしながら、適正な実施に留意し実施すること。</p> <p>新型コロナウイルスの拡大状況を踏まえ、政府が提唱する「新しい生活様式」や各団体からのガイドラインを踏まえたうえで、各業務の実施について、創意工夫を図ること。</p>
